

# めだかの学校だより

平成10年5月1日

第20号

学舎：いなさ自然休養村  
〈つみくさ〉

引佐郡引佐町奥山  
1737-286

TEL053-543-0321

## 校長訓話

第二〇回校長 鈴木真弓

急に代役の校長先生になりました。代役を受けよと言われたのが4月22日です。私、今日4月24日、引越しの真つ最中です。部屋の中いっぱいにあふれたダンボールの山、山・山・山。現在は雨も降っています。昨日の天気予報では気持ちいい位、雨マーク。大雨覚悟の引越しでしたが、荷物を新居に入れる間は天気予報がはずれました。引越し屋さんが帰り、電話を取り付け、テレビのアンテナも付いて、得した気分、外の大雨です。

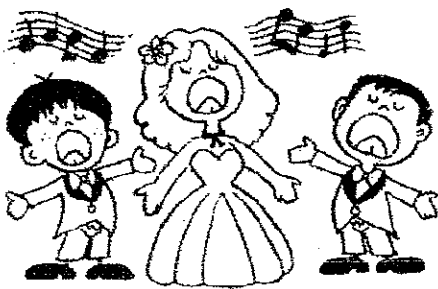
夜八時を過ぎて、台所のカウンターに原稿用紙がのっています。一つでも多くの荷物をかたづけたいのに、25日に提出しよとの命令が、頭の中で回っています。本人何を書いているのか、実際の所良く解っていません。手元に辞書も無いので、久しぶりの文章は漢字が出てきません。日頃手紙を書くこととの減ったむくいでひらがなの多い読みづらさを我慢して下さい。

思い出せば「めだかの学校」を知っ



たのは、私が初めて個展を開いた時でした。「めだかの学校」の存在は、中日新聞の記事を読んで知っていました。一回目の大雨の中の発表をとても興味を持って読んだので、記憶の中にずっと残っていました。けれどその時は引佐町との縁もなく、とても遠い所の集まりだと感じ

て終わっていました。それが、偶然の重なりで現在に至っているのですが、入学した1回目の参加の時は地図を片手に、暗くならないうちに着きたくて、けれどそのために早く着いてしまい、中へ入るのも気後れして、学舎のある奥山の回りをグルグル車で時間つぶしのドライブでした。今の私を見て信じてもらえないかも知れませんが、本当です。とても不思議だと思えます。何か心に引っかかったり、興味を強く持てば、相手の方からも近づいて来る。人も物事も・・・



まだ山ほどの仕事が残っているので、私、終わりにさせていただきます。皆様、6月の時はよろしくお願ひいたします。

## めだかの学校伝言板

— 第20回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

開校日／平成10年6月5日(金)6:20PMより

校長／鈴木 真弓

教頭／鈴木 武史

用務員／久米久乃利

給食係／伊藤茂男・久米かよ子・松本芳廣

大塚加奈子・今村純子・渡辺三ツ子(チーフ)

富永セツ子・野末かつ子・前島克己

加藤修一・照井泰子

受付／水谷典義・藤城佐知子・小栗茂

1時限目＝伊藤英雄先生

理科「芋博士のイモ講座」

2時限目＝片瀬信江先生

社会科「蒲原がんばる今日も元気」

3時限目＝松本泰榮先生

家庭科「もうマンジュウは怖くない?!」

めだかの動き

# 泳ぎ回るめだかたち

## ■地域づくり団体全国研修 交流会に参加して

平成十年二月二十七日二十八日に福井県で地域づくり団体全国研修交流会が開催されました。岐阜県からは、私たち夢倶楽部から2名、ミズみずフェスタ実行委員から1名、岐阜県協議会事務局の亀田さんの合計4名のみとやさみしい参加となりました。

二十七日の集合研修は南条町、まずは特産品の「花はす」の美を使ったはすおにぎりと葉を使ったはす茶、越前若狭の山の幸、海の幸のいばい入ったふるさと大鍋でお昼ご飯のおもてなし。文化会館へ会場移動するとそこには過去に交流の有った福井県鯖江市や京都の大江町など懐かしい顔が、「あの時はありがとう。その後どうですか？」の一言で通じ合えるから交流は楽しい。

ホールに入りオープニングへ、千四百年の歴史を持つと言われている越前万歳は国の無形文化財の指定を受けているそうで、「鳥差し」の場面は長野県の田楽座のその原形だろうか？などと勝手に想像を働かせ楽しませていただきました。

福井のふるさと紹介のビデオについて「美しい日本の暮らし」のテーマで女優の浜美枝さんの講演がありました。日本の食を支える農の大切さや豊かさの中でゆとりを持てる地方でのくらしや、心を癒す事のできる生活。地方と都市部との交流として日本型グリーンツーリズムの提案。ダムの底に沈

んだ東北の村に住んでいた人との交流や自分の農業体験など経験からのお話などがありました。

第2部は「もつと聞かせて！もつといわせて！私たちこんなことやっています」と題して活動事例発表がありました。発表者と内容については資料に任せることにして、自分の感じたことを書きます。それぞれの地域の団体が活動の内容や切り口に違いこそあるけれども、共通することは地域の文化や歴史、人材など資源を生かしそこに住む人たちのためのコミュニケーションの絆をつくる活動を智恵を出し合って行っているということ。そこには、ふるさとを愛する強い気持ちと熱い行動力がありました。情報発信型やリゾート的考えの町おこしのような派手さはないけれども地域に住むこと、暮らすこと、身近なことから変えていく行動、集団だから出来ることや楽しみ、など共感のもてる活動でした。

今回の地域づくり団体全国研修交流会の特徴は、企画を県が行うのではなく福井県の地域づくり団体が実行委員会を連合して行ったことで、随所に福井ならではの文化や歴史、食などがちりばめられた研修となっていました。

ご当地の龍神太鼓保存会の出陣太鼓に送られて分散研修交流会へ移動、岐阜のメンバーはそろって三國研修会でした。バスの中であの痛ましいナホトカ号石油流出事故のボランティア活動のビデオを見ながら三國観光ホテルへ。

夢倶楽部の提案で福岡町からもボランティアに参加していることもあり、福井の海がどれだけ回復しているのか気になりました。

(中略)

三國みらい塾のメンバーが今までの活動の中で一番心に残ったことは、町の文化や歴史、民話、昔あそびなどをまとめて「彦べえのふさと三國お話畑」と題して、町民に呼びかけ発表会を行った事だそう。町の中を歩きまわり町のいろいろな人から聞き取り調査を行い一人と話すと楽しかった。歴史など体を使って調べたことで生きた知識になった。ふるさとへの愛着につながった。資料にまとめ、昔話などは劇にしてメンバーで演じたり、語りを地元にいる NHKのOBに頼んだり、音楽をエレクトーンの先生に作曲演奏していただいたりとメンバーの智慧と手づくりでやりとげ、フィナーレのふるさとを会場のみんなが歌ったときは三國の風景や波の音が聞こえる思いがしたと言っておられました。

「地域の中から地域を見つめる」「ふるさとを愛する人が集う」地域づくりの原点が三國みらい塾の地道な活動の中にあるように感じました。

(恵那郡福岡町夢倶楽部 早川裕康生徒)

(注) 次回の全国交流大会は、十年八月山形県、十二一月宮崎県で開催する予定です。

(榊原幸雄生徒)

## ■今年も清水で…?

県、未来づくりネットワークによる地域開催のフォーラム、第1回目の大須賀町を皮切りに賀茂村、川根3町と場所を変えて開催してきました。そこで4回目をむかえる今回は、より一層の各町の充実を目指し、

より多くの方に参加してもらおうと企画、検討委員会を設け、町づくり関係者15人ほどのメンバーで議論を重ねてきました。イベント、物産展方式、ゲーム感覚や全員参加型など意見百出、めだか榊原、横山生徒も大いに発言、提案をおこないました。検討の結果、今年も清水市を会場とすることに内定、内容、テーマについては今後、地元の方を交えて話し合っていくこととなりました。

(遠州横須賀倶楽部 大番頭こと 鈴木武史生徒)

## ■ふるさとを大切に育て、親子の絆を築く。

ふるさとを大切に育て、親子の絆を築く細江町を中心にP.T.A活動や地域づくりに奔走している、上嶋裕志生徒。今年度は、文部省の家庭教育支援の地域づくり推進事業にとりくむ。「家庭でしつけ、こころで育む地域づくり」と称し、子供おしをりプラザ開設、青春伝言メッセ(青春の速吠え)電話開設、ミニコミ新聞発行、親子で思い出の道づくりなどユニークな発想で企画、実施される予定。

## ■畑でメダカが泳いでいます。

昨年から、大須賀町の海岸沿いの砂畑で何匹かのメダカがサトウキビやサツマ芋、種々雑多な野菜を育てています。4月に入ってから秋刈り取ったサトウキビの株から新芽が

出てきましたので、土寄せや施肥を始めました。海岸から移植したり種蒔きした「ハマボウフ」(てんぷらが最高)も新しい葉がみごとについています。今年も、様々な虫たちやカラスの餌になつてしまひそうです。ジャガ芋やトウモロコシも植え付けました。これから、スイカ、ナスやトマト、サツマ芋なども植えます。

遊休農地の活用や大須賀町の特産物である「しろした糖」の原料の安定供給をめざしながら、イベントを開いて、多くの方々にアウトドアライフを楽しんで頂きたいと考えております。

鈴木メダカはほとんど毎日、その他のメダカは土目を中心に畑で砂と雑草にまみれて泳いでおります。今年も是非、私たちの「なんでもあり農園」にお出かけください。

お問い合わせは深谷、竹内、鈴木、中川、松本まで

(松本芳廣生徒)

## ■豊岡村ふれあい施設 七月オープン

豊岡村の地場産品ふれあい施設の紹介をさせていただきます。

いよいよ建築工事も大詰めです。だいたいの形がみえてきました。名前は、「とれたて元気村」、豊岡村の地場産品をPRするため施設です。オープンは7月12日(土)の予定、ただ参院選と重なった場合は7月18日(土)に変更の予定です。

浜北市から浜北袋井線を東進し、浜北大橋をわたり、2つ目の信号機手前の右側にあります。「とれたて元気村」の大きな

看板があり、のすぐわかります。

茅葺き屋根の形をしたレトロ調の建物でなかなかのものです。思いつきは豊岡村の佐藤村長、基本構想は「存じ、めだかの、創造屋、武井紀夫さんです。

施設の中身は、「見て」、「触れて」、「味わう」がコンセプト、「見て」は地場産品の直売、参加登録をすれば村内の生産者であれば誰でもOK、静岡中央養鶏の卵、それに地場の野菜、果物、山菜などの農産物、もちろんめだかの生徒のミカンの深澤さん、それにサツマイモ博士の伊藤英雄さんも参加しています。そのほか、広瀬タコ屋のブカ風それに一瀬さんの竹細工などもあります。実は私も我が家の無農薬自然栽培のお茶や竹の子ワラビなどを出荷しようと思っています。

「触れて」は加工直売、ロックフィード(神戸コロッケでお馴染み)のサラダやコロッケ、商工会関係者のパン、それに、畜産農家のアイスクリーム、豊岡梅園の梅ジャムなどです。

「味わう」、これは50人収容のレストラン、ここも存じめだかのキッチン味里の金原志郎さんがシェフとして入ります。エビ芋やさつま芋、それに白ネギ、天竜川のアユなどふんだんに使った金原さんのこだわり料理が楽しめます。

敷地面積はおおよそ4,200平方メートル、建坪は五九〇平方メートル、総事業費三億六千万円、いずれにしても、豊岡版グリーンツーリズムの一端を担う地域活性化の拠点施設として期待されています。

完成の暁には、素晴らしい感性のあるめだかの生徒の皆様、好奇心旺盛な目でそつと大胆に覗いてみていただき、率直なご意見をいただければと思っております。

(鈴木正上生徒)

## ■40から世代(40 50代)は21世紀 高齢化社会のマーケットリダー しじゅうから乗校から熱きコラボ

しじゅうから乗校：「おとなの交流の場づくりを目指して、文化放送が事務局、女優の浜美枝さんが学長に就任。高齢問題の専門家や多彩なジャーナリストを「専門委員」として常時編成、研究会での様々な問題を客観的な立場から分析、シンポジウムなどにゲスト出演。第1期生として首都圏100組のしじゅうから夫婦が入校スタートするといふもの。

鈴木正士さんが東京での「大江戸遊学会」交流会で「めだかの学校」の話をしたところ、「しじゅうから乗校」と相互交流させてください」とのラブコールがきたとのこと。

企業的な企画の「しじゅうから乗校」は、だれが生徒か、先生かの「めだかの学校」とは少々スタンスが違うが、「新しいおとなのネットワーク形成、地域を超えた「生きがい交流」を促進」というテーマは「めだかの学校」ではすでに実践されており、お互いに共感するものがあります。メダカとシジユウカラ、相互交流、もちろん大歓迎でしょう。

(てるてる坊主)

## ● イベント まつり情報

### ● 引佐

引佐町渋川で、「三遠南信・食文化交流サミット」人花と五平(たんご)サミットが、5月23日(土)、24日(日)の2日間、引佐町渋川の渋川つじ公園入口で開かれる。

このサミットは、三遠南信自動車道の計画も進められ、行政、民間ともにも交流が盛んになってきている。そうしたことからの地域共通の食文化である「五平もち(御幣もち)」を通して、「人」の交流を図りながら、地域におけるネットワークの推進を目的に4年に1度開催されることになった。今回は2回目である。

サミットでは①「五平もち」を中心とした各地域の物産市②「五平もち」と地域振興を題材とした基調講演③花と五平サミット④参加地域間の交流会⑤各地域のパンフレットを集めたコーナーなどがある。

参加市町村は長野県から南信濃村、天龍村など6町村、愛知県からは稲武、豊根など6町村、静岡県からは、水窪、天竜、佐久間、引佐の4市町村が参加を予定している。

「五平もち」と言ってもそれぞれの地域によって、形やタレなどの違いがあり、食べ比べしてみるのも一興がある。

つじの咲く時期は、渋川への道は渋滞となりますので、お早めにお出かけください。お問い合わせは、引佐町役場 企画商工課 光課 TEL 053-542-1113まで。(永田課長と土手課長補佐は、めだかの生徒です。#出席率は悪いけど) (ハラ)

### ● 細江

ゆかたを歩んで、ハワイを歩いてみよう！  
第二回細江町ゆかた祭り 7月18日(土)午後5時、ゆかたを着て細江町を歩き、三方所のポイントをチェック。お楽しみ企画にハワイ旅行をはじめ豪華景品プレゼント。詳しいことは細江町ゆかた祭りのホームページまで。 E-mail: hiroe@city.hiroe.lg.jp

TEL: 053-542-1113

バラさんのひとだより

前編「恭代さん夫婦」に3月22日、2世のめだかが誕生しました。女の子で、名前は「理世ちゃん」。もう可愛くて可愛くて、新米パパは、親の有難さをはじめて分かって、「両親に「ありがとう」の言葉が自然に出た。苦勞やではじめてわかる親の恩ですね。

大分県湯布院町の観光案内所事務局長として、年間出向していた渡辺久美さんが、湯布院町の皆様へ惜しまれつつ帰ってきました。何となく、彼の湯布院町における実績は、めだかの生徒を湯布院町に視察や旅行に行かせたこと。また観光協会や、湯布院町のリーダーである中谷健太郎さんが、めだかの生徒のいる町に講演に来てくれたこと。湯布院町との交流も盛んになったこと。彼が戻ってきて、東京都庁出身の新事務局長さんがいます。行きましょ。

4月1日から、静岡県庁「ゆめ未来同花博準備室」になります。2004年に浜松市で開催される花博に向けて、大魔神「中谷健太郎さん」は、奮闘中。でも、あまり近づかない方がいいです。強引に「花博友の会」に入会させられます。被害者、も出ています。ちなみに会費は2000円です。詳細は花博準備室。

浜北市の「万葉の森」に設立時から関わり、指導員として活躍していた藤美登良男さんが、3月31日をもって退職しました。退職後も時々行くそうです。少し時間の余裕ができたこと、みくまで計画している「野草葉草研究会」の設立準備に協力をお願いしたいですね。

「いっしょのひと」である伊藤友彦さんが3月31日をもって引佐赤十字病院を退職いたしました。これからの人生を「フィールドワーク」で「農と食」を楽しまし、のんびり過ごすこと。雑穀は健康にとっても最高です。

森町の村松達雄さんが、4月1日より森町商工観光課から静岡県大飯事務所へ出向となりました。地域の情報を、どんどん送り込んで欲しいとのことです。住所は、〒541-0051 大飯市中央区備後町3-3-9 静岡県大飯事務所 TEL 066263-6120 FAX 06635-7552

余暇をランナーの片岡繁輝さん、4月1日から静岡県会館ランナー協会の会長になりました。これからの団体や、会費をどうするか、重要課題のひとつもなっています。めだかの生徒も少し参加しましょう。エフ？「めだかの学校」そのものが会館ランナーのひょう。

桶原幸雄さん、4月30日まで、設立から6年間勤めた「みくま」の支配人を退任致しました。4月1日から自宅でもある、小さなレストラン「リンデンバウム」の新米ウェイターとして、緊張しながらも、奥さんとあたりで頑張っています。まだまだ、「お父さん」と呼ばれていたものを、お店では「幸雄さん」「明美さん」と呼び合っているそうです。30年ぶりくらいに「幸雄さん」と呼ばれたら、鳥肌が立ちました。とのこと。でも、新鮮で、いいですね。遅くないですよ。みなさんもやってみよう。なんとなく恥ずかしいでしょうけど、いいものです。

「注」支配人は退任しましたが、ときどき「みくま」にいきます。今までは、今までの通り、自然休養村「みくま」におきます。なお、緊急な連絡や問い合わせは、〒431-2531 引佐郡引佐町東久留女木472-11 「リンデンバウム」桶原幸雄 TEL 053545-0381(FAX)同(自宅) 併用可です。

メダカ春秋

脱サラ（いや卒サラ）といった方が自分には嬉しい言い回しかもしれないが、1年が過ぎた。こんなに1年で長かったのかと思う程と、かく長かった1年。青年期より十才は古く見られるのが常だった私は、案の定、周囲の皆さんからは、「定年ですか、これからは年金生活でいいですね。」と何回も言われて苦笑した。草笛の演奏依頼、講演依頼が無ければ、自宅に居る時が常となる、新しい生活。電話が一本もかかって来ない日が続き、社会から全く取り残されたような気分になり、気分が沈んでしまった。やっとなりが過ぎた、やっとなりが過ぎた。やっとなりが過ぎた。そして三か月も経過すると新しい生活パターンにも慣れてきた。

会社に、組織に属さないで生きるのは随分と気持ち楽だ。しかし毎日自分自身の意思で生活を設計し、生きる時代と、かならずしんどい。幸い私は高校時代から社会福祉ボランティア、野鳥の会、ボーイスカウト、日曜学校、園芸、ギャラリー巡り、緑のネットワーク作り、ヒューマンネットワーク作り・・・と多方面の分野にわたり活動してきたので、時間の使い方、スケジュールの組み方には慣れており随分と助かった。そしてフラワーパーク在職中の仕事とともに今までやって来た事の全てが新しい「人と植物ふれあいコーディネーター」のライフワークに役立つ事を知った。物事、今やっている事が将来どこで役に立つかわからないのだと。

またフリーとなった今、めだかの学校の存在、そして、メンバーの皆様との交流は私にとって最良の依り処である。六年目に入っためだかの学校、この学校がなかったら、池の外へ出てみようなんて考えなかったかもしれない。池から出て、外の良さ、池の良さを共に感じているこの頃である。(渡りのカモ)

事務局より

必ず手続きを!! 六期は10年9月1日から11年8月31日までです。新入生・継続生ともに手続きが必要です。

在校生(継続生)も入学手続きが必要です。同封の入学申込書に記入し入校金1000円を添えて申し込んでください。手続きのない方は、自動退学名簿からはずれることとなりますので気をつけてください。入校金を納入して、「めだかの学校生」となります。

各地のたよりの掲載について 各地域でいろいろの催事があると思います。次回発行日は、8月ですので、7月20日までに事務局へファックス、又は封書にてご送付ください。

めだかの学校事務局

〒431-2524 静岡県引佐郡引佐町1-737-2806 いなせ自然休養村へつみくま TEL・FAX 053543-0031